

第2回海南市水道料金審議会 議事録概要

開 催 日 時	令和4年11月21日（月） 午後2時00分～午後3時35分
開 催 場 所	海南市役所 2階 第4委員会室
議 事	(1) 海南市水道事業の現状と課題について (2) 水道料金について (3) 水道事業会計のしくみについて (4) その他

1. 開 会

海南市水道料金審議会条例第5条第2項の規定に基づき、委員の半数以上が出席しているため、会議は成立していることを報告。

2. 議 事

(1) 海南市水道事業の現状と課題について

事務局 (資料に基づき説明)

委員 水道事業体は、将来を見据え、老朽化に伴う施設の大規模更新や水道施設の耐震化の強化などの事業に必要な資金を確保するうえで、水道料金はいくら必要かを把握し、場合によれば料金改定を行うことで、財政計画なり事業計画を立てることが重要である。そういった中において、計画の進捗管理を行うとともに、3年から5年ごとに見直しが必要である。そのためにはPDCAサイクルを動かすことが大事であるが、「7 経営戦略の進捗」の「計画策定→実施→検証→見直し」のサイクルを具体的にどう動かしていくのか。

事務局 毎年の予算・決算作成時などに投資事業の進捗具合などをチェックしている。見直しについては、(経営戦略の策定から5年目となる)令和5年度には事業計画などその必要性について検討を行わなければならないと考えている。

委員 水道法施行規則では、概ね3年から5年で算定を見直すよう努めなければならないとされている中で、決算資料に基づいて業務の実績やその分析結果を出してほしい。

事務局 決算書公表に際し、国の通達に従い、各経営指標も掲載しており、次回の審議会で審議資料として提示する。

委員 「5 財政計画」について、令和6年に不足する場合は、水道料金の見直しなどを行うのか。それとも「収入と支出のギャップ解消に向けた取組」を行うことで、令和6年度以降も資金は維持できるのか。

- 事務局 これまでも人件費を中心に経費削減に取り組んでおり、第3回で資料を提示する。料金改定の要否については、そのようなデータも踏まえて議論いただきたい。
- 委員 海南市水道ビジョンの下位に経営戦略があるという位置づけか。
- 事務局 はい。
- 委員 経営戦略は、料金改定を想定したものではないということか。
- 事務局 経営戦略では、令和6年には赤字になるという計画を示している。
- 委員 7番に「水道ビジョンの見直し等に応じて、経営戦略の見直しを行います。」とあるが、本審議会で料金改定等検討したことが先に水道ビジョンに反映され、それを受けて経営戦略の見直しになるのか。
- 事務局 本審議会における料金の審議・検討が、水道ビジョンや経営戦略に記載の「料金改定の検討」に該当する。
- 委員 本審議会での審議・検討等の結果が、水道ビジョンと経営戦略に並行して反映されると。であれば、水道ビジョンの概要と、市として「6 収入と支出のギャップ解消に向けた取組」などに取り組んでいるがそれでも経営が厳しいから料金改定が必要であるという中で、これだけのことをやっているんだという具体的なことを示してほしい。
- 事務局 次回の会議で（ビジョンの概要版を）提示し、取組内容についても説明する。
- 委員 「4 投資計画」に10年間で106億円とあるが、その進捗状況と投資予定をして赤字になる経緯を伺いたい。
- 委員 収支計画とそれに基づく事業を実施した場合の見込みかと思うが、説明を今できないのであれば、分析結果から将来的に資金繰りができないので料金改定が必要とのプロセスに至る中で、委員一同その内容を確認し理解したいので、次回の審議会で、具体的に分析結果を出してほしい。
- 事務局 次回には財政シミュレーションに加え、本日頂いた質問内容も踏まえた資料を提示する。
- 委員 計画通り投資できるのかという質問の趣旨なので、その点について説明をお願いします。
- 事務局 事業の進捗状況に関し、「4 投資計画」のうち特に大きな事業として挙げている紀の川導水管更新事業及び老朽管更新事業については、目標達成に向け、毎年度、建設改良費ベースで年7～8億円程度の事業費で進め、起債の償還金を加えると年間約10億円の事業費になる。今後も同じ資金ベースで実施する必要があるが、十分に精査して事業を

進めたい。具体的には、延命化できる部分については延命化に取り組み費用軽減に努めたい。

委員 事業費として毎年7億円から8億円必要で、それに室山浄水場整備事業約26億円を加えると、10年間の総額が106億円になるとの理解で良いか。

事務局 良い。

委員 延命化を図ることで106億円の事業費を圧縮できると考えているか。

事務局 延命化することで費用削減に努めたいが、老朽化が進んでいる中でどの程度まで延命化できるか慎重に検討していく必要がある。

委員 事業の優先順位とその事業予定年度を示して、それに要する費用のうち起債できない金額は水道料金等で賄っていかなければならないという話になるので、次回以降で改めて説明してほしい。

委員 事務費等6億円とは何か。

事務局 主に、建設改良事業にかかる職員の人件費である。

委員 106億円というのは、物価高騰等を含む6年先を見込んだ額か。

委員 毎年進捗管理を行う中で時機に合った計画や金額に改めていかなければならないので、106億円ありきじゃないと思うが、事務局も同じ考えか。

事務局 同じ。

(2) 水道料金について

事務局 (資料に基づき説明)

委員 用途別を採用しているが口径別の方が良いとの説明であったように思うが、用途別と口径別の比較はどうするのか、(料金水準だけでなく)料金体系まで議論することができるのか。

事務局 議題1で説明した海南市の水道事業の現状と課題や投資計画等を踏まえ、現行の料金水準でも引き続き事業運営できるか。仮に料金改定が必要であれば、先に料金水準を検討し、そのうえで、口径別の料金体系を採用する事業体が全国で約6割に上る状況にある中で、より合理的な料金体系の検討まで審議いただきたい。

委員 料金水準についての議論に加え、用途別と新たに口径別にした場合の両方で審議する必要がある。13ページ・14ページの口径別とは何か。

- 事務局 現在、メーター使用料は、口径別の料金体系である。給水料金については、今後どのような体系が妥当か審議いただきたい。
- 委員 口径別とした場合の資料はあるか。
- 事務局 4回目の審議会で具体的な資料を提示する。
- 委員 料金体系まで審議すると大変な量にならないか。
- 事務局 3回目の審議会では、令和15年度までの財政シミュレーションを踏まえ、現行の料金水準でも持ち堪えられるのか、料金改定が必要である場合は、まず料金の水準をどうすべきかについて審議いただきたい。4回目では、今の料金体系で料金改定するのか、別の新しい体系で改定するのか審議いただきたい。
- 委員 新しい料金体系で料金を改定するのであれば、現行の料金水準においてはその体系がどうなのか示してほしい。
- 事務局 4回目の審議会では懸念されている点を踏まえた資料を示すので、料金体系も審議いただきたい。
- 委員 事務局は、負担の公平性の観点から、用途別料金体系よりも口径別料金体系の方が良いとの考えか。
- 事務局 用途別料金体系は不公平であると水道使用者等から意見をいただいているので、どのような料金体系が望ましいのか審議いただきたい。
- 会長 用途別、口径別双方のメリット・デメリットを示した資料があれば、いずれが妥当か分かるので、その資料を提示してほしい。
- 事務局 提示します。
- 委員 用途別料金体系は、例えば家事用か事業用か不明な事案があり、そういったことがあるので用途別料金体系が説得力に欠けるというのであれば、口径別にする方がシンプルではないかということで、日本水道協会では口径別の料金体系を提案している。また、財政状況が厳しいのは他の水道事業体も同じで、料金改定を行う過程で、料金体系のシミュレーションを行った結果として口径別に移行しているのが現状だと思う。以上から、体系についても、事務局からきちっとしたシミュレーションを示してもらい、使用者に納得してもらえよう審議会にしたいと思う。
- 委員 口径別の場合、基本料金を取らない水道事業体もあるのか。
- 委員 色々なパターンがある。

委員 (現行の料金水準で、) 体系を用途別から口径別にした場合の資料があれば議論しやすいと思う。

委員 口径別を基本としつつ特定の用途については用途別の料金を設定している水道事業体もある。横浜市もそうだが、例えば船舶給水は口径だけでは計り知れないものがある。このことから、口径別だけで決めるのではなくて、バリエーションも当然あるので、シミュレーションに基づき、最良の方法を議論していきたい。

会長 シミュレーションをもとに、適切な料金体系の議論が必要との意見をいただいた。この点を踏まえ、次回以降の審議会で議論していきたい。

(3) 水道事業会計のしくみについて

事務局 (資料に基づき説明)

(4) その他

事務局 第3回は12月19日の月曜日午後2時を予定。

3. 閉会